

視点を変え
発想を変え
次の技術を

例えば

人間との共生が 最も古い動物、犬に学ぶ。

技術の進歩は、疑問と観察から始まるのだ。

イヌの嗅覚はヒトの数千から数万倍とされ、匂いの種類によっては1億倍まで感知できます。嗅細胞もヒトの500万個に対し、犬種によって差はありますが2億5,000万から50億個と見積もられています。ヒトが顔や声について特別な記憶力を持つように、イヌは匂いについて優れた記憶力を持っています。聴覚もヒトより鋭敏で、可聴周波数は40から47,000Hz。ヒトの20から20,000Hzと比べて高音域が広く、このヒトに聞こえない音域で犬笛が作られています。さらに、群れ動物として進化したその習性により、所属する集団中での関係性を鋭敏に感知することができます。古来より人間社会との共生において、犬を飼う家族に対しても、接する人に応じて自己主張の度合いを変え、高度な生きる知恵を持っているのです。



特集

祝卒業・修了

contents

- 02_ 学長メッセージ
- 04_ 卒業・修了を祝して
- 06_ 贈る言葉&卒業・修了にあたって
- 15_ 全国高専めぐり
- 16_ 退職にあたって
- 20_ 修士論文発表会レポート／編集後記



Message

新原 皓一

長岡技術科学大学長



Koichi Niigata

諸君の輝かしい未来に乾杯！

学部卒業、大学院修了おめでとうございます。諸君が、社会人として、大学院学生として現代の様々な問題の解決に重要な役割を果たされることを期待します。

諸君の在学中には記憶に残る多くの事が起こりました。その中で、諸君が一生忘れ得ない出来事は、2年前の平成23年3月11日（金）に発生し、未曾有の被害をもたらした東日本大震災だと思えます。M9の大地震と想像を絶する巨大津波は、約二万人の尊い命と数十万人の財産と生活を奪いました。福島原発事故被災地区では未だに故郷に帰れない多くの方々があります。

この震災後、明らかになった多くの事実があります。日本人の強い絆と連帯意識、逆境に立向かう力を世界に再認識させました。しかし、2年経った今でも被災地域の復興は遅々と進みません。また、新しいエネルギー政策の立案もなかなか進んでいません。他にも多くの解決すべきことが残されています。諸君は、今後も続くこの多くの課題の解決において自分で何が出来るかを考え、日本人として、更には高度な技術者としての立場から責務を果たさなければなりません。

近年、大学を取り巻く環境は激変して

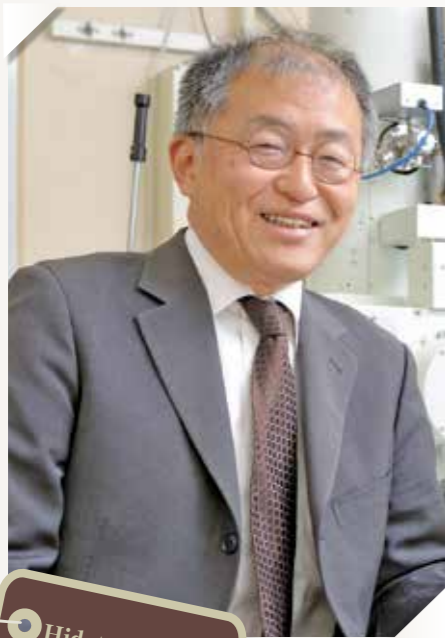
います。これに対応するため、本学では一昨年「長岡技術科学大学中長期成長戦略」を策定し、これを達成するためのアクションプランに従い着実な活動を進めています。この中長期成長戦略は、本学の新しい理念である「社会の変化を先取りする“技学”」を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指す。」に向け、「ものづくり」の礎となる技学を新たな時代へと深化させ、未来を先取りする人材育成の使命を果たし、我が国の産業の技術革新と国際競争力向上に貢献するための10年先、そして20年～30年先を見据えたものです。この中長期を見据えた活動を行っていく段階でも多くの成果が上がっています。具体的には、①課外活動に参加する学生数が約1.6倍に増加した、②国内国外での会議における発表等による学生の受賞件数が大幅に増加した、③研究レベルを示す学術論文の引用件数においては、材料科学分野（セラミックス）で世界の大学の31番目に、オートメーション制御システム分野では世界の160番目にランクされた、④ダイヤモンド社

等による大学総合力においては日本の全大学の31番目（医療・介護専門大学を除くと14位。そして医学部のある大学を除くと6位）にランクされた、⑤学部及び大学院の就職率は常に全大学のトップクラスを維持している、④平成25年度の学部1年への受験倍率が全国立大学の2位の4.3倍に向上した、などがその一例です。大きな目標を遠くに見据えコツコツと努力していくことにより、このような良い成果がうまれてくるのです。

さて、いよいよ旅立ちの時がきました。本学で学んだことは将来、必ず役立つ時が訪れます。それは遠い未来かも知れませんが、諸君はその日がくるまでVOSの精神と技学の魂を秘め、「技大マインド」を持ち、努力を続けてください。

本学も他の様々な分野において着実に成果を上げるべく、前へ前へと進み、諸君が本学を卒業・修了した事実を今まで以上に誇りと感じるような大学へと自律的に革新していくことを誓います。諸君も本学で培った学びや研究を、仲間や先生との活躍を終生の誇りとし、本学の今後の活躍を見守りながら、未来を見据えて自分の進むべき道を切り拓いてください。

諸君の輝かしい未来に乾杯です。



Hidetoshi Saitoh

Message

長岡技術科学大学副学長
斎藤 秀俊

「将来のこと、
興味のあること」

皆さんの卒業ならびに修了を心から祝します。ご家族をはじめとする関係者の皆様のお喜びもさぞかしのことだと思います。在学期間中は皆さんの意識とは裏腹に、ご家族は常に皆さんの現在そして未来が気になって仕方なかったと思います。そういった意味では、心配しているご家族には将来のこと、青年になって興味を持ったことも含めて、卒業ならびに修了の報告をしてください。

将来のこと。現時点でわかるのは就職する会社名くらいかもしれません。自分がどの事業所に配属されてどのような業務をこなすのか、そしてそれは何年続くのか、その後の業務はどのように変遷していくのか、このようなことは一切わからないと思います。そういうときには、できるだけ大きな流れから順に自分の方向に向かって流れを紐解いてください。たとえば、世界人口は現在 70 億人です。30 年後には 90 億人になると予想されています。国連の統計によれば、現時点で人口減少していく先進国はわが国とドイツだけです。アメリカ、カナダ、西ヨーロッパ諸国のほとんどは年率 1% 弱で人口増加していきます。中央アジア、中央アフリカではさらに高い率で人口増加しています。このような国では増える人間をサポートする衣食住関連産業が必然的に伸びていきます。就職する会社がそのような国に活路を見出す可能性はたいへん高いといえます。

興味のこと。大学に入学する前と卒業・修了する時とでは、興味の対象が広がったことと思います。若い人の興味というのは、一国の産業構造をも変えてしまうほどの力を持っています。皆さんの中にはバイク好きがいます。皆さんの中にはバイク好きがいます。わが国のバイクの生産台数のピークは 1980 年に 650 万台でした。その頃から、全国的に「三ない運動」が展開されて、急激に減り始め、2010 年には 60 万台ほどになりました。この三ない運動はバイクに若い人を近づけなかったばかりか、若い人がバイクそのものに興味を持たないように変えてしまいました。その結果、「バイクが好きでバイクメーカーに入る」という学生の減少を招き、かかる産業は負のスパイラルに入りました。しかしながら、東南アジアを中心にバイク好きの若者が増えましたから、工場はわが国から国外のバイク好きの若者の方に寄っていきましました。円高のせいにする人がいますが、バイクが好きなのところに工場が寄っていくのは自然の成り行きです。

一人暮らしの生活を通じて、洗濯機や掃除機あるいは炊飯器などに馴染んだことと思います。高専の寮生活から洗濯機を使って洗濯をしていた人は、洗濯機には少いうるさいかもしれませんが、そして面白いことに、そうなのに自分が洗濯機に興味があると気がついていない場合が多いのです。ハイテク産業がアジア各国の追い上げを受けて壊滅的な打撃を受けたことは記憶に新

しいところですが、いわゆる白物家電はしっかりと業績を上げました。これは女性技術者の進出も理由にあげられる中で、実は若いときから洗濯機や掃除機あるいは炊飯器にこだわりのある男性技術者が多かったという理由もあります。技術者に馴染みの深い製品は必ず進化していくのです。

将来のこと、あるいは興味のあることを人に話すことによって、少しずつ自分の道が見えてくると思います。先進国向けの最先端イノベーション技術に進むのもよし、途上国向けに生活を支えるグローバルイノベーション技術に進むのもよし、ぜひ今までの思い込みにとらわれずに前進してください。世界は、あなたの技術を待っています。

母校は常に変化していきます。産業の流れをつかみ始めたら、ぜひ母校の情報にも興味を持って触れてください。そして、母校と世界をつなぐ大きな人に成長することを期待しています。



Message

長岡市長
森 民夫

「誇りと長岡魂を胸に、
大花火のように咲け」

長岡技術科学大学に学び、卒業、修了を迎えられる皆さん、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆さんは、2月20日発売のAKB48の曲「So long!」のミュージックビデオ(MV)をご覧になりましたか。長岡の高校生と東日本大震災により福島県南相馬市から転校してきた高校生の二人を中心に、被災地支援をテーマとした物語です。監督は、映画「この空の花 ー長岡花火物語」の大林宣彦監督。MVは実際に長岡で撮影された、約1時間の劇映画です。

私がぜひ見ていただきたいと思ったのは、皆さんと同世代のAKB48の皆さんが、東日本大震災に真正面から向き合い、長岡空襲や中越大地震から復興した長岡魂を精一杯演じ伝えようとして



Tamio Mori

いることです。

この先の人生、皆さんは迷い、苦しみ、悩むことがあるでしょう。たとえ厳しい状況に立たされても、正面から受け止め、あきらめずに挑戦し続けてください。MVの中で「助け合おうという精神をなくしたら日本は滅びる。復興とは人づくり。みんなで賢い美しい人間に育つ。これが長岡魂」とあったように、長岡の風土と人に親しみながら勉強・研究を重ねた皆さんは、まさに長岡魂を受け継ぐ若者です。長岡技術科学大学で精一杯学んだという誇りとこの長岡魂が、必ずや道を切り開いてくれるはずですよ。

長岡市は、中越地震などで全国から多くのご支援をいただきました。そのご恩返しに昨年、宮城県石巻市で復興祈願の長岡花火を打ち上げ、アオー

レ長岡では宮城県女川町のさんまつりを開催しました。岩手県大槌町の復興を妨げていた災害廃棄物の処理を引き受けたのも、困った時に手を差し伸べられることがいかに被災者を勇気づけるか、身をもって体験しているからにはほかなりません。

美しい自然、さまざまな祭り、地域の魅力とともに、皆さんは長岡の宝です。皆さんにとってこのまちが、いつまでも心の故郷、誇りであってほしいと願っております。

今年も長岡の魅力をも日本・世界に発信していきます。4月の水泳日本選手権。7月には自治体最大規模の生ごみバイオガス化施設が稼働します。これは、東南アジアからの視察ラッシュが予想されている施設です。アメリカ独立記念日の7月4日には、フォートワース市で世界平和を願う長岡花火を打ち上げます。信濃川にかかるフェニックス大橋は 11 月末に完成する予定です。映画「この空の花」は被災地そして広島や長崎でも上映します。もちろん、東北の応援・交流を引き続き進めていきます。

最後に、AKB48のMVから皆さんにこの言葉を贈ります。「長岡大花火のように美しく日本の空に咲け」。新しい環境で飛躍することを市民とともに応援しています。



長岡の魅力や復興の姿が描かれているAKB48の曲「So long!」のMVから。信濃川の河川敷にて

贈る言葉

大学で学んだこと

卒業・修了おめでとうございます。
 今から150年近くも前(1867年)、J.S.ミルがセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演「大学教育について」(竹内一誠訳、岩波文庫)の中で、すでに次のことを言っています。
 「人間が知らなければならない事柄は、世代が代わるごとに、しかも未だかつてなかった速さで現在増加しています。その結果、一つの分野を詳しくかつ正確に知ると思う人は、その分野全体より小さな部分に限定せざるをえなくなるでしょう。・・・他の学問あるいは研究すべてを排除して、一つの学問あるいは研究のみに没頭するならば、必ずや人間の精神を偏狭にし、誤らせることはすでに経験によって知るところです。」「我々が学ぶ

目的は、将来自らの仕事に役立つような知識を少しでも多く身に付けるということにあるのではなく、むしろ、人間の利害に深く関わるあらゆる重要な問題について何らかの知識をもつことにあります。学生が大学で学ぶべきことは知識の体系化についてであり、個別に学んできたことを包括的に見る見方です。」
 これは混とんとした現代において、益々重要な大学の存在意義となってきました。
 我々は生涯にわたって新しい知識を獲得し、それを統合していく力を育て続けなければなりません。皆さんはその方法を本学で学ばれたはずで、皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。

贈る言葉

贈る言葉

御卒業、御修了おめでとうございます。
 さて、現在の社会は混沌としています。環境破壊、経済危機、貧困、テロとの戦い etc.
 すべて、複雑に絡み合っているうえに、地球規模で考え、解決していかなければならない問題です。
 それらの問題解決のためには、専門家(プロ)の知識や判断がとても重要になると同時に私たち一人一人が市民として考え、決断することが必要です。専門家は自分の狭い専門分野だけにとじこもっては行けません。市民は専門家だけに決断を預け、文句だけ言っては行けません。
 みなさんは工学の専門家、としての深い知識と市民としての広い視野を持ってこの困難な状況を先頭に立ち切り開いていってください。
 「いつやるんですか?」「いまでしょ!!!」



機械系長
東 信彦 教授
 Nobuhiko AZUMA



電気系長
大石 潔 教授
 Kiyoshi OHISHI

卒業・修了にあたって

技大で過ごした4年間

私は高専から本学に編入し、修士課程修了までの4年間を過ごしました。クラスメイト以外にも、研究室や野球サークルにて学年や課程・専攻に関わらず多くの友人ができ、楽しい大学生活を送ることができました。
 機械系では学部3年の後半から研究室に配属となります。そこでは研究に関わる専門の知識はもちろんのこと、自分の意見を分かりやすく伝えることや、計画を立てることの大切さなどについても学びました。学部4年の2学期から、本学の特徴でもある5か月間のインターンシップ「実務訓練」があります。私は名古屋市に所在する鉄鋼業界の企業にお世話になりました。研究室で学んでいる分野とは異なる企業だったため不安もありましたが、社員の方々の助けもあって仕事を進めることができました。学部生のうちに企業

の一員として社会人経験ができたことは、将来社会人になる前に自分を見つめなおす良い機会となりました。修士課程に進むと、学会発表や修士論文発表などで自分の研究成果を知ってもらう機会が多くなります。その際の準備は多少大変でしたが、自分の研究に興味を持ってくれた方もおり、とても嬉しく感じました。
 最後になりましたが、これまで指導して下さいました先生方、また友人達のおかげで充実した大学生活となりました。4年間ありがとうございました。



研究室メンバーとの花見

卒業・修了にあたって

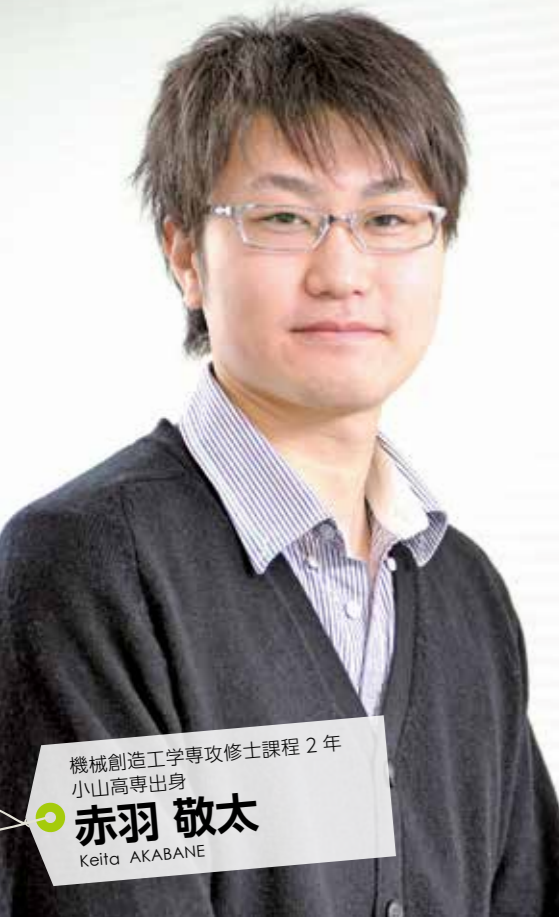
学生生活を振り返って

長岡での生活も、そろそろ終わりを迎えようとしています。この4年間を振り返ると、もっとも印象に残っているのは原田・菊池研での研究室生活でした。私の在籍する研究室は、50名近くの学生がおり、研究や遊びに対して非常にアグレッシブでした。系長杯ソフトボール大会やフットサル大会に積極的に参加し、大会後はスイカ割りやビールかけなど豪快な打ち上げを行いました。また、深夜のボードゲームやたこ焼きパーティーなども頻繁に行われ、研究室での思い出は楽しいものばかりでした。
 研究活動では、大気圧プラズマに取り組みました。私は企業との共同研究に参画をして、打合せと実験を繰り返し、試行錯誤しながら研究を進めました。その結果、国内の学会発表のみならず、国際会議への参加、学術誌への論文投稿も行

うことができ、厳しくも充実した研究室生活を送れました。
 このような楽しく充実した研究室生活を過ごせたのも、先生方をはじめ先輩方や同期、後輩など多くの方々のおかげです。また、大学への進学を理解し、常に応援してくれた家族には本当に助けられました。周りの人たちの支えがあり、無事に卒業を迎えられたのだと実感しています。お世話になった方々に心から感謝し、これからの社会人生活にも全力で取り組んでいきたいと思えます。



系長杯ソフトボール大会の打ち上げ



機械創造工学専攻修士課程2年
 小山高専出身
赤羽 敬太
 Keita AKABANE



電気電子情報工学専攻修士課程2年
 阿南高専出身
本田 雅也
 Masaya HONDA



物質・材料系長
野坂 芳雄 教授
Yoshio NOSAKA

贈る言葉

期待は自分自身のもの

学士、修士、そして博士の学位を取得される諸君、おめでとうございます。社会へ旅立つ諸君は実務訓練で経験した以上の緊張感を持って企業に入られることと思います。また、進学される諸君も、卒業を自分の新たな出発点として捉え、残る学生生活に期待をよせていることと思います。

諸君は、本学特有の実務訓練で会社や社会人のあり方を体験し、また、配属された各自の研究室では世界的に優れた研究の一端を担ったことで、大学が標榜するVOS（活力、創造力、世のための奉仕）の精神を身につけたと確信します。そのようなものは身につけていない、と思う人がいるかもしれない。しかし、明確な目標を持って大学生活を終えた諸君には、

知らず知らずのうちにそれが備わっているはずですよ。

卒業後も、これまでも増して、他人に依存せず、自分で考え、行動すれば、素晴らしい未来が開かれることと思います。昨今、日本の大企業の業績が不振で早期退職が多く、社会情勢に未来が見えない面もありますが、人生の目標をしっかりと定めていけば、企業の規模は小さくても、転職により、やりがいのある仕事に就くこともできます。それは、あくまでも諸君自身が自分で考え、目標を持って行動するという信念に依存します。VOSの精神を忘れずに、輝かしい未来に向かって邁進してください。



贈る言葉

気概

卒業、修了おめでとうございます。第1期の卒業生を送り出してから34回目、修了生は32回目の旅立ちの時期を迎えています。本学は、国立大学としては新しく設立されましたが、それでも30年以上の歴史を積み重ね、最初の頃の卒業・修了生は社会のトップで活躍しています。古い伝統のある大学の卒業生に負けず、実社会の中に新たな伝統を築きつつあります。

世界は経済的に相互依存の度合いを増し、わが国の多くの人々はグローバルな競争の中で成果を挙げてきています。ただ、世界の価値観は多様で、痛ましい事故も起きないわけではありません。アルジェリアでの悲劇に本学の修了生も含まれていたことを知り、悲痛な思いをしています。私達の生活がそのような人々の大

きな努力によって支えられていることも改めて考えさせられました。

1期からの本学卒業・修了生の活躍を見て感じるのには、社会で携わる仕事は誰にでも同じように与えられるわけではなく、時には非常に辛いものを引き受けざるを得ない状況になるということです。でも、現在、トップで活躍している彼らは、ピンチを乗り越え、飛躍のチャンスにしています。本学の卒業生、修了生であることの誇りと、自らの人生は自ら切り開くという気概をもって、現在の地位を築いています。

皆さんは、本学での学生生活を通じて、これからの活動の基礎を培ってきました。多くの先輩と同様に、人生の大きな花を咲かせてください。幸多かれと祈っています。



環境・建設系長
丸山 久一 教授
Kyuichi MARUYAMA

卒業・修了にあたって

卒業にあたり



材料開発工学課程 4年
新潟県立新発田南高校出身
豊岡 恵弥
Keiya TOYOOKA

例えば、色々な事や人との出会いがあり、とても充実した4年間でした。入学してから本当にたくさんの友人と助け合いながらここまでたどり着くことができました。長岡技術科学大学は様々な分野を学んできた専門高校出身者や高専からの編入学生の割合が多いので、普通科出身の私は彼らと一緒にやっていけるのかとても不安でした。しかし、講義内容や実験について、仲間とわからないところを教え合いながらテストや実験に挑み、無事に乗り越えることができました。日々の生活では、色々な分野の話が聞けることは有意義でとても楽しかったです。また、サークル活動も忘れられません。食品関係の会社へ企業見学に行ったことやビジネスコンテストに参加するなど、貴重な経験を得ることができました。

4月からは食品関係の会社に就職しま

す。大学で学んだ知識や経験を最大限に生かし、消費者の皆様により安心でおいしい食品を届けられるよう努力します。最後に、大学でお世話になった教職員の方々や研究室のみなさん、材開（材料開発工学課程）のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れずに、これからは社会人の一人として、周りの人から感謝されるような人になれるよう、精一杯頑張ろうと思います。



材開メンバー飲み会

卒業・修了にあたって

4年間を振り返って

編入当時は瑞々しい（気のせい？）ハタチでした。勉強は難しい、長時間の実験、試験機は調子がおかしくなる、論文は進まない（現在）、そして怒涛の就職活動も経験...他にも盛りだくさんに揉まれて、気付けば四つ、歳を取りました。この4年間は、楽しいことよりもきついことや失敗の方が多かったのが正直なところですが、精神的な持久力が随分と上がり、そして図太く、たくましく成長できたと思います。きついことや失敗をたくさん経験したこの4年間は、今後長い職業人生を迎える上で間違いなくプラスになると確信しています。

もちろん、苦しいことばかりではありませんでした。全国各地から集う友人達との出会いは、とても刺激的でかけがえのないものとなりました。彼らがいなければ途中で潰れていたでしょう。研究が

行き詰ったときに誰かが言い出す鍋パーティーほど、おいしく、楽しく感じるものはありません（先生ごめんなさい）。部活動でも、全国各地、さらには世界各国からの仲間も増え、卒業後も交流できる大勢の友人ができたことをとても嬉しく思います。

最後に、今までに出会った皆さん、たくさんの場面で支えて頂き本当にありがとうございました。4月から新社会人、頑張ります。



技大祭で演武後の1枚



建設工学専攻修士課程 2年
長野高専出身
檀原 志織
Shiori DAMBARA



生物系長
古川 清 教授
Kiyoshi FURUKAWA

贈る言葉

社会の問題を深く考えよう！

学部の卒業、大学院の修了にあたり、一言お祝いを申し上げます。社会、経済、政治が縷々点々とする中で、何に価値を求め、何を軸にして生きていくかは、社会人になるにあたり内面的に非常に重要な課題です。しかし、多くの学生諸君はこの課題をあまり考えずに社会へ出てしまうのではないのでしょうか。本学への留学生が多いマレーシアの首相を長年務めたマハティール・ビン・モハマド氏は自国の経済発展に日本をモデルとした『ルック・イースト』政策を唱え、自国に大きな繁栄をもたらしました。しかしながら、今や東南アジアの発展途上国においては、お手本とするのは日本ではなく韓国のようなです。なぜ経済発展に日本型モデルが魅力を失ったのかは、今の日本を見れば

お分かりいただけるでしょう。このような社会問題を自分なりに深く掘り下げ、自分なりに理解し、自分はどの行動するのかを考えることが、これから特に重要になると思います。そもそも大学を卒業・修了するという事は、社会の問題を体系的に考える力を併せ持つことも意味します。極めてユニークな建学の精神と教育システムをもつ本学で学んだ諸君からは、是非『ルック・ザ・ギダイ』を軸に社会で考え、活躍してほしいものです。

贈る言葉

行動の原則

ご卒業・ご修了、おめでとうございます。経営情報系はじめ長岡技術科学大学の卒業生・修了生の皆さんが、社会人あるいは技術者・研究者としての新しい門出を迎えられることに対して、心よりお祝いを申し上げます。この長岡技術科学大学において修得された工学的知見と探究心、および実践に役立つ技術力が今後の活動に役立ち、さらには社会の進歩に貢献することを期待しております。社会においては、大事から小事にいたるまで、仕事を進める過程で、あるいは家庭の生活において、さまざまな判断を日々求められることとなります。この時、自己の中に行動の原則が確立されていれば、迷うことなく即断することが可能となります。司馬遼太郎の『峠』の中で、この物語の主人

公である長岡藩執政の河合継之助は、万事に矛盾のある中で、起こすべき行動を即決できるようになること、が目標であり、そのために行動の原則を探し求めることが自分にとっての学問だ、と言っています。他者の意見に付和雷同することなく、学習・体験により築き上げた自己の信念に即して、行うべき行動を選択してください。単に知っているだけの知識ではなく、行動を伴う知識(胆識)を修得して、困難に立ち向かってほしいと思います。皆さんの若い活力と豊かな創造力で、既存の枠組みを変革して、人々と地球にやさしい社会の構築に向けて努力されることを期待します。



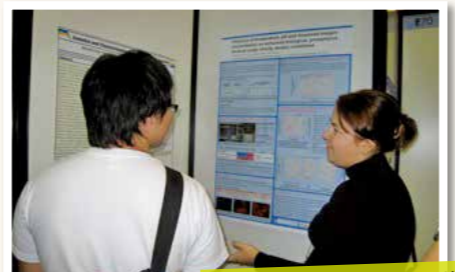
経営情報系長
福村 好美 教授
Yoshimi FUKUMURA

卒業・修了にあたって

自分の将来を決めた決断

修士課程から長岡技術科学大学に進学し、最初に研究室の教授に言われた一言を今も覚えています。「ここでの研究は大変だけど大丈夫?」。その言葉どおり、研究に取り組む毎日と思うようにいかないことの連続で、日々を振り返る間もなく過ぎていきました。修士2年の10月、就職先も決まり、修士論文に向けて研究に没頭しているさなか、私の研究において大きな一歩となる成果が得られました。当初は、「これで修士論文に華が添えられる」程に考えていた私ですが、次第にこの成果をもっと世界中の研究者に知ってもらいたいと強く思うようになりました。私は就職の内定を辞退し、博士課程への進学を決意しました。それから平坦な道のりではありませんでしたが、国内や海外での研究発表を経て、これまで育んできた研究が次第に世界の研究者たちに受

け入れられていく様子を肌で感じることは何事にも代え難い喜びとなりました。学位取得後は学会発表で興味を持っていた企業で今の研究を続けていくチャンス頂きました。まだまだ私の研究は始まったばかりです。この研究成果が私たちの生活を豊かにする技術の礎となることを信じ、さらなる研究の世界に一歩を踏み出していこうと思います。



国際学会での一幕 (Italy, 2010)

生物統合工学専攻 博士課程3年
長岡高校出身
今井 俊輔
Shunsuke IMAI

卒業・修了にあたって

My international life in NUT

When I decided to come to Japan I couldn't but imagine myself alone, surrounded by Japanese people speaking a quite complicated language; I never thought that I was going to have such a great international experience being here. It's true that here in Japan there are not so many foreigners, and there are still people who get surprised when they see my foreigner face around the city; but I guess I was very lucky to end up studying in this University, because I have met so many international people, that I feel like I have known many countries of the world instead of just one.

I have heard my own Spanish language spoken with a Venezuelan accent. I have tried the real curry, made with Indian ingredients and by Indian hands. I have seen the colorful Nepal in their beautiful dresses. I have known great cities in Europe by seeing my friends' pictures. And of course, I have also shared a piece of my Mexico, its delicious food and cheerful traditions.

While sharing all this, we have also had many good experiences knowing Japan altogether. I have made many trips around Japan with friends from different parts of the world. We went to the beautiful Kyoto, to the old samurai city of Aizu-Wakamatsu, to the cold Sapporo, to the modern Tokyo, and so on. We have found very kind Japanese people, willing to share with us a part of their culture, despite of the difference of language. I will soon leave Japan, happy to have known so many places and things about it; and thanks to my international friends, I know that I still have a world to see with my own eyes.



Trip to Sapporo Snow Festival



経営情報システム工学課程4年
メキシコ出身
グレシア・カスタルディ
Grecia Castaldi



システム安全系長
平尾 裕司 教授
YUJI HIRAO

贈る言葉 安全のパイオニア、エキスパートをめざす皆さんへ

システム安全専攻を修了された皆さん、誠におめでとうございます。責任ある社会人としての仕事と両立させながら、また、ご家族のご理解を得ながらシステム安全専攻での勉学に取り組まれたこの2年間の多大な努力に敬意を表します。

システム安全専攻の授業科目は、機械安全を中心とした安全技術と安全マネジメントで構成されています。皆さんの専門分野は多岐にわたりますが、産業分野の代表的な安全領域である機械安全について体系的に学んだことによって、自分自身の専門分野における安全の課題と取り組むべき方向がよりはっきりと見えてきたのではないかと思います。このようななかで、6期生の皆さんのなかに、システム安全の概念を新たに医療などの分野に

適用して安全のパイオニア、エキスパートをめざす方々の姿があることを頼もしく、また嬉しく思います。

システム安全専攻の修了は、次のステップの始まりです。志を同じとする安全プロフェッショナル集団である同窓会、安全安心社会研究センターとともに、最新の安全技術・マネジメントに関する学習の機会や活躍の場を充実させていきたいと思っています。

皆さんの安全の担い手としてのご活躍を期待しています。



贈る言葉 出口と入口と

学生生活は長かったでしょうか、短かったでしょうか。どんな過ごし方をしたにせよ、社会に出てしばらくたってから振り返ると、随分と貴重な時間だったと思うことでしょうか。

漱石の「門」はいわゆる当時の腰弁(毎日家と職場との間を弁当を持って往復する給与生活者)生活を送る男を主人公にしたものですが、毎週のように次の日曜には朝湯につかりたいと言いながら、その日曜が来ると疲れすぎていて朝湯に行くだけの気力もないという、そんな姿を描いています。それでも小説の中の時間がゆったりとしている印象を受けるのですから、我々の生きている社会は恐ろしいものでした。かつてユビキタスという言葉がはやりました。しかし、いまクラウドの

時代になり、日常のすべてが仕事時間になりかねない状況です。社会人としての責任感は大変ですが、ふとしたときに自分自身とも自分の仕事とも距離感を持てる、そんな心のゆとりを作ることを考えておくとも良いでしょう。

職場の人間関係もどんどんドライになって来ています。しかし、私自身のことを振り返っても、仕事で知り合った人たちに公私ともに助けられたという経験が少なくありません。学生時代までのような深い付き合いはなかなかできませんが、仕事のうえの人間関係というのはまた違った意味で貴重なものです。仕事上での様々な出会いは最初は煩わしく感じられるかもしれませんが、目先の利害を離れて大事にすると良いでしょう。



原子力安全系長
小川 徹 教授
Toru OGAWA



システム安全専攻 修士課程 2年
野沢 義則
Yoshinori NOSAWA

卒業・修了にあたって 修了にあたって

2年間の社会人学生生活が、いつの間にか終わってしまい何故か寂しさが残ります。私は、総合病院で臨床工学技士として人工心肺装置の操作、医療機器の管理に従事しています。

振り返れば3年前、安全について基礎から学びたいと思いシステム安全専攻を志望しました。青森(八戸)と長岡、東京サテライトに土日通学という壮大な計画は、時間管理と交通費計算に始まり、達成できない場合の損失など葛藤の日々でした。入学が決まった2年前、計画にはない「東日本大震災」で東北の大動脈(東北新幹線)は切り裂かれ、入学式にも参加できず通学を諦めかけましたが、岩手、宮城、福島の前向きな姿に心を動かされ通学を決意しました。

システム安全専攻は異業種の集まりですが、「安全」に対する考え方、他業界

の安全対策など何を聞いても参考になると共に、仲間との意見交換はとても楽しく刺激的でした。社会人として仕事を続けながら学べること、実務に役立つ内容であることなど、社会人に配慮した環境に感謝しております。

最後に、ご指導いただいた先生方をはじめ、一緒に学ばせていただいた同窓生の皆さん、本当にありがとうございました。

贈る言葉 新しい一歩を踏み出すあなたに

僕の前には道はない
僕の後ろに道は出来る
と、若き高村光太郎はうたった(道程)。
助走路を共に歩んだ友とわかれ、今、自分だけの道を踏み分けていかなければならない。振り返れば、かすかな記憶から続く一筋の軌跡はみえるが、まだ、それを語るときではない。昂然と頭を上げ、一歩前に。
曲がりくねった社会をまっすぐ進むのは容易ではない。ぬかるみがあつたり、途切れていたり。だが、しっかりとその足で踏みしめれば、道は出来る。あなたはこの学舎で、その力を身につけたはずだ。
いつか、長い旅路の果てに、振り返ってみれば、そのときどきに曲がったりうねったりしている道が一本、まっすぐに続いているはずだ。
その一歩を今日、あなたは踏み出す。



教育開発系長
稲垣 文雄 教授
INAGAKI Fumio

卒業・修了を祝して

収穫

ご卒業、修了おめでとうございます。
「収穫という言葉が覚えた・・・長岡で一番の収穫は何？」水曜日の交流会で、留学生さん達が話していました。「〇〇君が収穫だったりして？」そんな冗談も言いながら。むつみ会の活動も25年になるため、長岡で出会い家族になり、その息子さんが遊びに来たりすることもありました。まさに人生を大きく左右するような出会いもあり、本当にさまざまな出会いが収穫になっているのだと思います。卒業、修了までの数年間、楽しいことよりも苦しいことのほうが多かったかもしれません。でも大変さの後に得られた達成感、自分で経験しなければ決して得られない、大きな収穫だったのではないのでしょうか。

四季の変化が少ない気候の国から来た留学生さんも多いと思います。四季の移り変わりがはっきりしている長岡で過ごした、



むつみ会・会長
高木 聖子
Seiko TAKAGI

何度ものきびしい冬。これから先、困難にぶつかった時、寒い冬もいつか過ぎ、必ず春が来て桜の花が咲いていたことを思い出してほしいと思います。そして経験したすべてのことが、今後さまざまな出来事を乗り越えて行く力になると信じています。これからのご活躍をお祈りしております。

おめでとうを言います

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。

今年度は同窓会発足30周年ということで、いくつかの記念行事を行いました。そのひとつに、マラソン大会があります。かつて開学記念日に行われてきたマラソン大会。いつの間にかなくなっていました。皆さんご存知の通り、昨年10月、復活開催しました。現役学生だけでなく、長岡市民の方々や技大職員の方々、同窓生が子供さんと一緒に等、大勢の方から参加して頂けて大変嬉しく思っています。今後も続けて行きたいと考えていますので、皆さんも長岡に里帰りする気持ちで、是非、参加してください。大歓迎です、お待ちしております。

マラソン大会の開催にあたって、たくさんの方から協力していただきました。開催に賛成して協力を申し出てくださった先生方、事務局の皆さん。積極的に協力してくれたクラ連役員や実戦空手道部員、深才地区の皆様。当日のスタッフとして動いてくれた学生の皆さん。そして、長岡療育園の皆さんが、大きな旗や横断幕を作って、大きな大きな声で応援してください、何よりも励まされました!!



同窓会会長・塩沢商工高等学校教諭
磯部 広信
Hironobu ISOBE

人って温かいな、有難いな。と感じ続けた日々でした。携わった全員が充実感、達成感を共有できたことと思います。

改めて、皆さんの卒業・修了は一人の力ではないということ（とづくに感じているでしょうけれど）強調したいと思います。家族や先生方に支えられ、仲間と励まし合い、時には売店や学食のお姉さんとの会話に元気をもらって達成できた研究であると思います。その経験を今後に活かし、人を支えられる、励まされる、元気を与えられる存在になって欲しいと思います。

VOSの精神を発揮して、皆さんの今後の人生がより充実したものになりますよう、心よりお祈り申し上げます。

Congratulations on your graduation.

シリーズ 全国高専めぐり

第四回 福島工業高等専門学校

地域復興人材を育成する「福島高専」

福島工業高等専門学校 校長
奈良 宏一
Koichi NARA



福島高専は、福島県太平洋岸のいわき市に位置します。いわき市の面積は、1200km²で、東京23区の約2倍の広さです。昔は常磐炭田の中心地として有名でしたが、現在は港湾関係と製造業が主産業です。市内に15の工業団地があり年間工業出荷額は約1兆円で東北一を誇っていますが、多くの産業が東日本大震災と津波で一時壊滅しました。(写真1)また、本校近隣には大規模な原子力発電所がありましたが、津波による事故で厳しい状況になっています。原発廃炉に必要な人材の供給が必須ですので、長岡技術科学大学に新設された原子力システム安全工学専攻などの協力関係をさらに深めたいと考えています。

このような地域に立地する本校は、高専制度が発足した昭和37年に創設され、平成24年に創立50周年を迎えました。(写真2)50周年にあたり、今後10年間の使命を「地域復興人材の育成」と「イノベーション創出に貢献する実践的・創造的グローバル人材の育成」と定め、それに向かって活動

中です。特に、地域復興人材育成に関しては、原子力立県から再生可能エネルギーの世界拠点への転換を目指す福島県とも連携して再生可能エネルギー、原子力安全、減災都市の3分野で人材育成と地域支援を行っています。(写真3)地域復興に役立ちたいとする学生の大きな力に期待しながら、学校をあげて地域の復興を支援しています。



写真1 小名浜地区の地震と津波による被害

<http://www.fukushima-nct.ac.jp/>



写真2 開校時から正面玄関前に聳える大樹



写真3 復興人材育成事業で放射線計測用無人ヘリの説明を受ける学生

福島高専から長岡技大へ



材料開発工学課程3年
武藤 美樹
Miki MUTO
福島高専物質工学科
平成24年3月卒業

私はクラスの半数を女性が占め、冬は雪がめったに降らない、という環境で高専の学生生活を送りました。本学への入学前は友達関係や気候などに不安を持っていましたが、高専からの編入者が多く、男女問わずすぐに友達が出来ました。現在は高専の頃から興味を抱いていた高分子材料工学研究室に所属し、日々実験を行っています。大学院に進学する人がとても多く、研究室における先輩・後輩間のつながりが強い点が技大の魅力の一つだと感じています。コミュニケーションを大切にすることで、新しい環境

での不安は吹き飛ばすことができると実感しました。あなたも多くの仲間とともに、楽しく充実した技大ライフを送ってみませんか。



▲研究室にて先輩から実験の説明を受けている様子

退職にあたって

長岡技科大での生活を振り返って

本学に着任した昭和56年(1981)は記録的な豪雪で、3月下旬に長岡へ到着したときにもうず高く残る雪に驚かされたものでした。南国育ちの私はこのような大雪は体験したことはなく、初めのころは恐れを抱くより新しい生活にわくわくしていた記憶があります。もちろん数年のうちには雪国の苦勞は味わい尽くしました。

着任当時は、キャンパスは現在とほぼ同じ程度に出来上がっていましたが、実験室などはただの空き部屋でした。配属される学生諸君を待ちかねるように研究室の立ち上げを開始しました。学生諸君も新しい大学を作り上げる意欲に燃えて協力してくれ、今も彼らの献身的な努力に深く感謝しています。

昭和63年(1986)には、レーザー応用工学センターの設立に財団法人工業開発研究所の委員として協力させていただきました。このセンターは当時の最新鋭の高出力レーザーを取りそろえ、新しい応用技術の開発を行うもので、大きな成果を上げられたと考えています。現在はレーザー応用工学センターの役目を終え、その建物はながおか新産業創造センター(NBIC)として利用されています。

海外協力として思い出に残るのは、JICAの東チモール大学工学部支援プロジェクトです。平成11年(1999)のインドネシアからの独立を問う住民投票をきっかけとして、

機械系 教授
増田 渉
Wataru MASUDA



東チモールはインドネシア軍の攻撃を受け、首都のディリは焼き払われました。私がJICA調査団の一員として最初にディリを訪問したのは、平成15年(2003)で、その時のディリはほとんど復興されておらず悲惨な状況でした。調査の結果、東チモール大学工学部支援プロジェクトを立ち上げることができ、私を含む技大教員が何度も現地で東チモール大学教員に対する講義を行ってきました。また東チモール大学教員を留学生や研修員で受け入れることも続いています。

32年もの長い間、このような素晴らしい人生を送ることができたのは、私を支えていただいた教職員の皆様、一緒に頑張ってくれた学生諸君のおかげです。大学を取り巻く環境はますます厳しくなっていくと思われませんが、これらを克服し本学がさらに発展することを祈念しております。

橋とともに40年

長岡技術科学大学に奉職して25年がたち、このたび退職を迎えます。15年勤務した、重工メーカーの橋梁開発、設計部門から、縁あって大学生活を送ることになりました。「橋とともに40年」の生活でした。大学人になると、「何ぞ専門で」とよく聞かれ、返事に窮した記憶があります。「橋」というと、「学際的ではないな」と言われたものです。あれから20年以上を経て、橋の老朽化時代を迎え、クローズアップされると、「橋の専門家」を称する方々が急速に増えたのだと感じます。橋が専門なら、橋全般、システムにも精通し、深い洞察力を磨けねばなりません。時間がかります。

転職にあたり、尊敬する恩師から、「論文を書いて評価を受けること」、「にわか評論家になるな」と言われましたが、私の25年を支えた大切な言葉でした。赴任した時

環境・建設系 教授
長井 正嗣
Masatsugu NAGAI



期から比べると、大学も大きく変貌し、競争の時代に入ったと強く感じます。企業は基本、利益という評価軸があります。転職した当初の違和感に比べて、現在の方が、厳しいが、より正当だと感じます。時代にアダプティブなパフォーマンス、PRも重要ですが、若い人には、恩師の言葉を送りたいと思います。

退職にあたって

私が本学に着任したのは、1980年修士課程第1期生が入学した年です。その前後も含め多くの先生方が赴任してこられ、教職員、学生、全てがいかにして本学を発展させるかと意気に燃えていました。

私の本学での時代は今から思えば2つに分けられます。着任から40代のはじめまでは、それほど研究費も無くまた教育という言葉も頭に余りありませんでしたが、学生とよくしゃべり、飲み、そして共に考え研究してきました。また、まわりの先輩諸先生から叱咤激励され、この時期は大学教員としての成長期にあったと思います。40代の後半からは、研究費も多少増え、良き共同研究者にも恵まれ、以前から考えていた研究に着手し非常に楽しく研究生活を送ることができました。また、学内外のプロジェクトにも参加することができ海外の知り合いも増え、貴重な経験をすることができました。

学生の卒業・修了時期にいつも言っています。入学時の顔と今の顔を比べてみよ、目の輝きが表情が非常に良くなっている、と。顔が四角であろうと三角であろうと Configuration (合成時に決定され

物質・材料系 教授
塩見 友雄
Tomoo SHIOMI



る分子の姿)は遺伝で決まるが、Conformation (環境によって変わる形)は日頃の生活によって決まり努力次第でいい顔になる。私の所属する高分子材料工学研究室で過ごした学生はこの3月で184名になります。彼ら彼女ら全員のConformationが修了時にはより良いものとなりました。社会に出ても一層磨きがかかっていると思います。このことが本学在職中に残すことができた私の一番の財産です。

長岡技術科学大学の発展を見守っていきたくと思っています。

33年もの間……

80年4月(開学3年目)に着任し、33年もの長い間お世話になりました。当初は、豪雪に驚愕しこんな所には長く居たくないな、と思ったものですが、素晴らしい自然に触れるうちに、数年後には小雪の年は何となく物足りないと思うまでになっていました。これほど長くなったのは、新しい就職口を見つける才覚がなかったからですが、なんと云っても本学の居心地が良かったことにつきま。

この間学内を、電気系、計画経営系(当時)、理学センター、環境建設系、教育開発系と移りました(たらい回し?)が、そのたびにいろいろな方々と知り合いになり本学の様々な側面(裏も表も)を知ることができました。どこに所属していても、基本的に数学的教育研究だけでもっばら携わり、(すぐには成果が期待できないであろう)自分の興味があることだけに、自分勝手なやり方で取り組むこ

教育開発系 教授
小林 昇治
Shoji KOBAYASHI



とことができました。「何事も基本が大切です。どんな問題もそれを解くにはその本質を理解しなければなりません」と講義等でことあるごとに強調してきました。たとえば、原子力発電所を安全に稼働あるいは廃炉にするには、核物理学を基礎から学ばなければならないでしょう。4月からは自由時間がもっと増えるので、好きなことに熱中しつつ未解決問題や解決困難な問題(放射性廃棄物処理等)の行く末を見とどけたいと思っている今日この頃です。

退職にあたって

定年にあたって

1980年4月から本学にお世話になりました。その間、主に電気系を通じて大学への教育研究支援業務にあたらせて頂きました。

私は電気系情報・通信分野の研究室をメインに、主に学生実験を通しての教育支援と、いくつかの研究室で、LAN発達の初期だったことをきっかけとして種々のアクセス方式のハードウェア製作と評価・制限された色数を使った違和感の少ないプリンタ画像表現を照明や色彩に興味を持っていたことを生かしたアドバイス・インターネットを利用したコミュニケーション実験への協力等の研究支援と、をしてきました。これらの支援をすることでハードウェアとソフトウェアの両面で私の技量をアップできたことを思うと、技術職員のスキルアップには研究室での教員や学生とのコミュニケーションが大切なことを改めて実感しております。

技術支援センター 技術長
遠藤 正義
Masayoshi ENDO



一方、技術支援センターの設立にも当初から係ることができ、大学の発展に貢献するための活動の立ち上げを見守ってきました。こうして無事に定年を迎えることができましたのも、皆様のご指導、ご支援、ご協力の賜物と感謝申し上げます。長岡技術科学大学のますますの発展を祈念しております。

定年にあたって

私は、平成20年4月に、金沢大学より赴任してきましたが、その昔、筑波大学より赴任して昭和54年4月から昭和57年1月まで在職し、合計6年10か月の勤務でした。

一番の思い出は、長岡技術科学大学創設期に携わったことです。当時は完成及び建設中の建物は、主なもので本部棟、講義棟、福利施設、学生宿舎、機械建設系研究棟、物質・材料経営情報系研究棟（建設当時の名前は忘れましたが）ぐらいで、周りを眺めても関越高速道は工事中、新産センターは名前すらありませんでした。

これからこのキャンパスが、どんどん整備されて完成されていくのかと思うと、わくわくしたあの若かった頃の、ドキドキした感じが忘れられません。年間発注件数も今と比較にならないほど多くあったと思います。また、56豪雪では、一晩に1m以上

総務部施設管理課副課長
白勢 秀雄
Hideo SHIROSE



の雪が積もり、通勤に4時間かかり日中は本部棟の雪おろしに、総出で参加し午後3時には帰宅が許されたにもかかわらず、家に着いたのが午後8時だったこともありました。今は古き良き思い出であります。

これからは、大学を取り巻く環境が厳しくなり、私たち施設系の職員がこれから、どのようなポジションで、大学にどのようにアシストできるかが、正念場だと思います。

最後になりましたが、長岡技術科学大学の益々の発展をお祈り申し上げます。

定年を迎えて

昭和55年4月、開学間もない本学に大学院修士課程が設置（第1期生入学）された年に、東京大学から転任してきて以来33年間本学にお世話になり、この3月で定年を迎えました。

東京大学では、学務系において東大独特の進学振分けなどの業務一筋でありましたが、本学着任後は、教務、実務訓練、第1期生の就職先の開拓を皮切りに、法規、広報、出納、庶務、学生、厚生、図書、研究協力など様々な分野を経験させていただきました。本学での33年間の勤務のうち前半は、平成2年度から6年度に毎年の異動で五つの係の業務にたずさわると、比較的短いサイクルで多くの分野を担当しました。反面、後半の平成12年度から今日までの13年間は、係や職名は変わりましたが、ずっと研究協力の分野を担当しました。様々な分野において、大変やり甲斐のある仕事をさせていただきましたことに感謝しております。

思い出に残ることとしては、日本中の大学が熱心に取り組んだ21世紀COEプログラムであり、単科大学であった本学が平成14年度と15年度で2拠点採択の快挙を成し遂げたことです。採

総務部研究推進課長
増田 勝郎
Katsuro MASUDA



択の有無が大学の運命の分かれ道の雰囲気の中、拠点調書作成のお手伝いをし、採択を勝ち得た時の感動は忘れられず、先生方と喜びを分かち合い、また、その後の取組みに関わらせていただきました。

今日この日を無事に迎えられましたことは、多くの皆様方のご指導、ご協力、ご支援の賜物と感謝しております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

4月からは再雇用職員として引き続き勤務させていただきます。微力ながら本学のお役に立てるよう頑張りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。

定年にあたって

昭和51年8月に通商産業省工業技術院機械技術研究所（現在 産業技術総合研究所）に入所させていただいた後、昭和57年5月に本学へ転任させていただきました。30年11か月の長い間、多くの教職員、学生の皆様が大変お世話になり今日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。この間長岡高専に2回（11年2か月）勤務させていただき多くの教職員、学生の皆様と楽しく有意義な仕事をさせていただくことができました。

採用されてから、平成2年3月までは、主に庶務や会計関係の仕事をさせていただきましたが、平成2年4月から現在までのほとんどを、学生の皆様と直接関係する業務に携わらせていただくことができました。

特に学生係には、最後の4年間も含め本学で2回、長岡高専で2回の計12年間担当できました。その間、多くの教職員、学生の皆様にお世話になり直接、厚生補導関係業務の仕事を行うことができましたことは、私にとりましてこの上ない喜びでありかつ感謝でございます。本学においては、クラブ連絡会の定例会等において、学生の皆様が安全に安心して有意義な学生生活を送ることができるようにいろいろとお話をさせていただき、昨年度から「サークルの活動にあたっての安全のための手引き」の作成等を行うことができ、今後も継続してこの取り組みを行うことができることとなりました。是非今後とも継続してほしいと存じます。また、毎月のように行事（合

学務部学生支援課学生係長
永橋 和彦
Kazuhiko NAGAHASHI



宿研修、春の球技大会、長岡まつり、技大祭、秋の球技大会、市内3大学球技大会、地区体育大会等）、研修会（サークルリーダー研修会、学生指導研究会等）を関係教職員、学生の皆様のおかげで実施することができ本当に充実した、素晴らしい思い出を多くつくることができましたこと書面をお借りし、厚くお礼申し上げます。どうか学生の皆様、健康と事故・けがに注意のうえ、自分の目指す職業に就けるよう充実した学生生活を送られるよう願っています。卒業・修了される皆様は、健康に十分留意のうえ、社会での活躍を心から願っております。

私は、本学でもうしばらく勤務できることを希望させていただきました。もう少しお世話になると思いますがどうぞよろしくお祈りいたします。

最後に、本学のご発展と皆様のご健康、ご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。

修士論文発表会レポート

—材料開発工学専攻 2月20日(水)・21日(木)—

2月20日(水)21日(木)材料開発工学専攻の修士論文発表会が本学A講義室にて開催されました。
41名の学生が発表しました。全員就職内定済です。

「バニリン選択結合性を有する分子インプリント
スフェアポリマーの開発とその中空系膜への応用」



発表する谷岡愛理さん 神戸市立高専出身
ダイキン工業株式会社内定

「可視光応答型光触媒粉末の助触媒担持による活性化」



質問に答える樋浦想太君 新潟南高校出身
紺商株式会社内定



審査のため質問をする梅田実教授



プレゼンテーション採点のため、審査員以外の教員も
全員出席

学部卒業生 498名 大学院修士修了 370名 大学院博士後期課程修了 26名が、卒業、修了しました。

編集後記

昨年末の政権交代で悪夢のような3年半が終わり、ようやく社会、経済に明るさが見えてきたが、卒業生の前途に不安が無くなるまでにまだどれくらい掛かるだろう。今年度の卒業生は、物心がついてからずっと景気が悪く、不安の時代が普通のように思い込んでいるかも知れないが、これからは「苦あれば楽あり」「世の中悪いことばかりじゃないさ」と過去を笑い飛ばして思いっきり活躍できる時代になることを期待したい。少なくとも本学卒業生はその時代を作るための十分な実力をつけているはずだ。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality,Originality,Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.174 [平成25年3月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会
◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。
〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1
TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010(企画・広報室)
E-mail : skoho@icom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。